

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果の安来市の概要について

安来市教育委員会 学校教育課

令和7年4月17日(中学校理科および児童生徒質問調査は4月14日～25日)小学校6年生及び中学校3年生を対象に実施された、全国学力・学習状況調査の結果について、本市の概要をお知らせします。

1 調査の概要

○調査の目的
義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
○調査の対象
◇小学校第6学年： 国語・算数・理科 ◇中学校第3学年： 国語・数学・理科
※全体の平均正答率は整数値にて公表されています。よって、各教科における全体の結果については全国との差に誤差(四捨五入の関係による)が生じることから、表示はしておりません。
※中学校理科はIRT方式で実施されました。(詳細は、中学校3年生の教科の概要欄にあります。)

(1)教科の概要

〈小学校6年生〉

・:概要 ○:成果 ▲:課題

【国 語】
・全体として、全国平均とほぼ同じでした。
○「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できるかをみる」問題や「目的に応じて、文章や図表などを結び付けるなどをして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる」問題などの記述式の正答率は、全国と比べると高くなっています。
○無解答率が全国平均をやや下回っています。
▲「話すこと・聞くこと」は、登場人物の発言の目的や理由を捉えることに課題が見られました。
▲具体的には、「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容をとらえること」や「話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめること」に課題がみられました。
【算 数】
・全体として、全国平均より少し下回りました。
○「異分母の分数の加法計算をすること」は全国平均より高くなっています。
○「はかりの目盛りを読むこと」も全国平均より高くなっています。
▲「『10%増量』の意味を解釈し、『増量後の量』が『増量前の量』の何倍になっているかを表す」ことや「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述する」ことに課題が見られました。
▲グラフや表から項目間の関係を読み取ったり、条件に合った項目を選んだりすることに課題が見られました。
▲「数直線上で1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかをみる」問題に課題が見られました。
【理 科】
・全体として、全国平均とほぼ同じでした。
○「電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識」や「ヘチマの花のつくりや受粉についての知識」は全国平均より高くなっています。
○「顕微鏡を操作し、適切な像にするための技術」も全国平均より高くなっています。
▲「乾電池のつなぎ方について、『直列つなぎ』に関する知識」は全国平均を少し下回りました。
▲理由を予想して表現したり、解決方法を発想して表現することに課題が見られました。

【 国 語 】

区分	対象問題数	平均正答率(%)				全国との差
		安来市	島根県(公立)	全国(公立)		
	14	65	64	66.8		
(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	2	77.4	76.7	76.9	0.5	○
(2)情報の扱い方に関する 事項	1	61.0	59.0	63.1	-2.1	△
(3)我が国の言語文化に関 する事項	1	79.3	79.6	81.2	-1.9	△
話すこと・聞くこと	3	63.3	63.4	66.3	-3.0	▲
書くこと	3	68.2	66.2	69.5	-1.3	△
読むこと	4	56.2	55.5	57.5	-1.3	△

【 理 科 】

区分	対象問題数	平均正答率(%)				全国との差
		安来市	島根県(公立)	全国(公立)		
	17	55	56	57.1		
A区分「エネルギー」を柱と する領域	4	43.8	44.4	46.7	-2.9	△
A区分「粒子」を柱とする 領域	6	49.1	49.7	51.4	-2.3	△
B区分「生命」を柱とする 領域	4	51.2	51.3	52.0	-0.8	△
B区分「地球」を柱とする 領域	6	64.9	65.4	66.7	-1.8	△

※対象の区分が複数重複している問題もあります。

【 算 数 】

区分	対象問題数	平均正答率(%)				全国との差
		安来市	島根県(公立)	全国(公立)		
	16	54	55	58.0		
A 数と計算	8	57.7	59.9	62.3	-4.6	▲
B 図形	4	52.7	53.4	56.2	-3.5	▲
C 測定	2	54.0	52.5	54.8	-0.8	△
C 変化と関係	3	50.1	54.4	57.5	-7.4	▲
D データの活用	5	56.4	59.6	62.6	-6.2	▲

※対象の区分が複数重複している問題もあります。

※安来市の平均正答率を全国平均に対して、差が
+3ポイント以上を◎
0～+3ポイント未満を○
0～-3ポイント未満を△
-3ポイント以下を▲

【国 語】

・全体の正答率は、全国平均とほぼ同じでした。
○「事象や行為を表す語句についての理解」は全国平均を上回りました。
○「目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること」や「相手の反応を踏まえながら自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫すること」は全国平均を上回りました。
▲「文脈に即して漢字を正しく使う」ことに課題が見られました。
▲「書くこと」において「文章の構成や展開を考える」ことや「語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える」ことに課題が見られました。

【数 学】

・全体の正答率は、全国よりやや下回りました。
○「データの活用」において、「判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること」は、全国平均を上回りました。
○「関数」において、「事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ること」は、全国平均を上回りました。
▲「数と式」において、「目的に応じて変形したり、その意味を読み取ったりして事柄が成り立つ理由を説明すること」に課題が見られました。
▲「図形」については全般的に全国平均を下回り、特に「多角形の外角の意味の理解」に課題が見られました。

【理 科】(共通問題部分)

・全体の正答率は、全国平均とほぼ同じでした。
○「粒子」において、「身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定する」ことや「探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現する」ことは全国平均を上回りました。
▲「エネルギー」において、「回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能」に課題が見られました。
▲「地球」において、「小学校で学習した知識を基に、知識及び技能を関連付けて、分析して解釈」することに課題が見られました。

【国 語】

区分	対象問題数	平均正答率(%)			全国との差
		安来市	島根県(公立)	全国(公立)	
	14	52	53	54.3	
(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	2	44.3	47.7	48.1	-3.8 ▲
(2)情報の扱い方に関する 事項	0				
(3)我が国の言語文化に関 する事項	0				
話すこと・聞くこと	4	52.1	51.8	53.2	-1.1 △
書くこと	5	50.7	52.1	52.8	-2.1 △
読むこと	3	61.0	60.8	62.3	-1.3 △

【理 科】

区分	対象問題数	IRT スコア	割合(%)		
			安来市	島根県(公立)	全国(公立)
	22	5	3.1	4.9	6.2
A区分「エネルギー」を柱と する領域	5	4	21.0	17.8	20.3
A区分「粒子」を柱とする 領域	8	3	38.6	44.3	42.0
B区分「生命」を柱とする 領域	5	2	32.2	29.1	27.3
B区分「地球」を柱とする 領域	5	1	5.1	3.9	4.2

【数 学】

区分	対象問題数	平均正答率(%)			全国との差
		安来市	島根県(公立)	全国(公立)	
	15	44	46	48.3	
A 数と式	5	37.2	39.5	43.5	-6.3 ▲
B 図形	4	38.8	44.3	46.5	-7.7 ▲
C 関数	3	46.9	44.8	48.2	-1.3 △
D データの活用	3	57.8	58.3	58.6	-0.8 △

※安来市の平均正答率を全国平均に対して、差が
+3ポイント以上を◎
0～+3ポイント未満を○
0～-3ポイント未満を△
-3ポイント以下を▲

【中学校理科で実施されたIRT方式について】

※IRTとは、国際的な学力調査(PISA、TIMSSなど)や英語資格・検定試験(TOEIC・TOEFLなど)で採用されているテスト理論です。この理論を使う、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし(尺度)で比較できます。
※共通した問題を解く公開問題と実施日ごとに異なる問題を解く非公開問題を組み合わせて出題されているため、他教科のような平均正答率は出ません。
※中学校理科の対象問題は22問ですが、6問のみ共通問題です。他は異なる問題が出されるため対象の区分が複数重複している問題もあります。
※IRT方式での調査結果は、正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点(スコア)を基に、5段階のIRTスコア(標準スコアは3、最大スコアは5)で表示されています。

(2)学習や生活の様子(児童生徒質問・学校質問調査より)

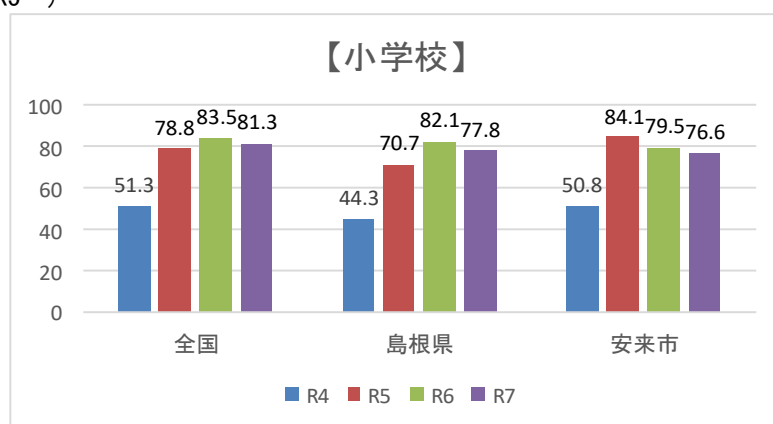
<小学校6年生>

【全国と安来市との比較で特徴的な項目】(全国平均との差)

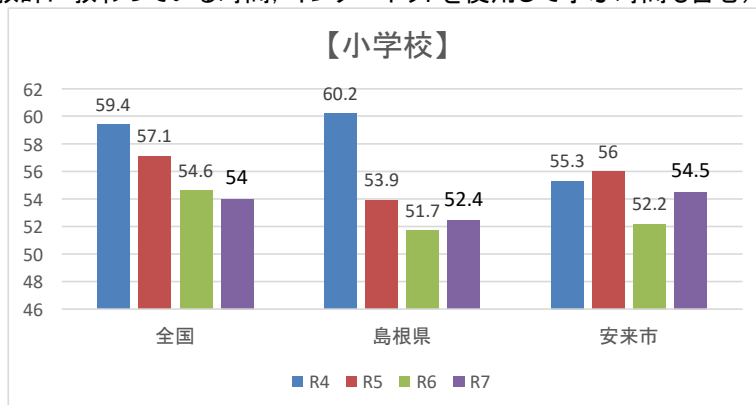
小学校	肯定的な評価項目(一部)
	◎朝食を毎日食べていますか(+3.2) ◎5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか→週3回以上の使用の割合(+17.5) ◎学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC、タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか→使っている割合(+7.1) ◎先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。(+2.7) ◎国語の勉強は得意ですか(+2.4) ◎今回の国語の問題の、全ての文章で答える問題で、最後まで解答を書こうと努力した。(+4.2) ◎調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習について、児童が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか(+9.8)
小学校	否定的な評価項目(一部)
	△自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか(-13.9) △地域の人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか(-4.4) △5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか(-13.2) △学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか(-10.5) △算数の勉強は好きですか(-8.5) △算数の授業の内容はよく分かりますか(-9.4) △自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか(-13.2)

【学校・地域・家庭に関わる項目】過去4年の経年比較

○地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか(R4)地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか(R5～)



○学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間、インターネットを使用して学ぶ時間も含む)(1時間以上の割合)



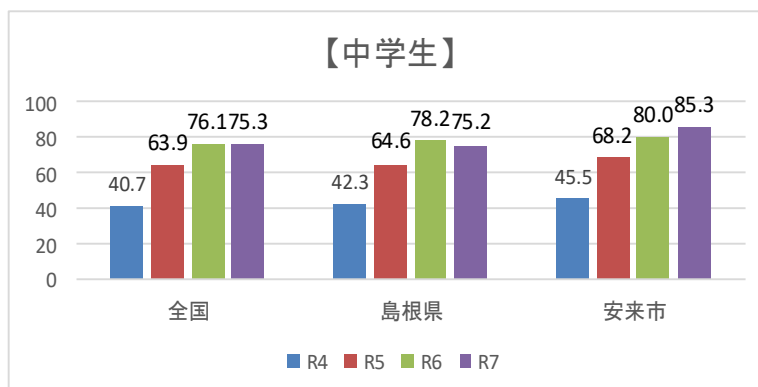
< 中学校3年生 >

【全国と安来市との比較で特徴的な項目】(全国平均との差)

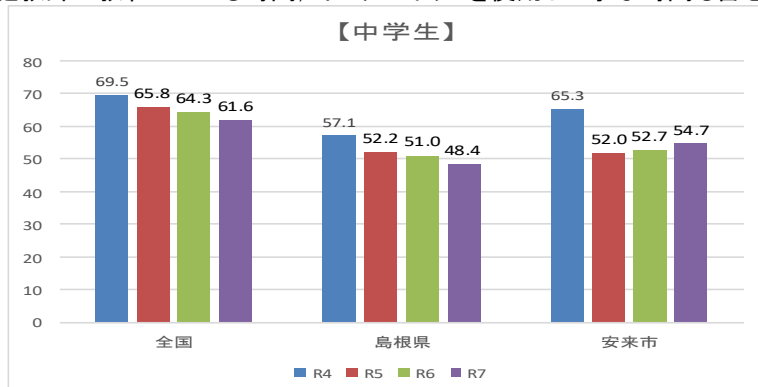
中学校	肯定的な評価項目(一部) ◎朝食を毎日食べていますか(+5.4) ◎学校に行くのは楽しいと思いますか(+4.5) ◎自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか(+6.3) ◎1、2年の時に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか→週3回以上の使用の割合(+16.7) ◎学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC、タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか→使っている割合(+13.9) ◎地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか(+10) ◎地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがあります(+5.4) ◎国語の勉強は得意ですか(+18.8) ◎数学の勉強は得意ですか(+12.7) ◎令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか(学校のホームページや学校便りなどへの掲載、保護者会等での説明を含む)(+16.6)
	否定的な評価項目(一部) △将来の夢や目標を持っていますか(-3.7) △理科の勉強は好きですか(-7.4) △理科の授業の内容はよく分かりますか(-8) △理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか(-3.6) △将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思いますか(-3.5) △解答時間は十分でしたか(国語)(-7.2) △解答時間は十分でしたか(数学)(-6.6) △言語活動について、国語科を要として、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか(-14.7) △調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか(-20.3)

【学校・地域・家庭に関わる項目】過去4年の経年比較

○地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか(R4)地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか(R5～)



○学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間、インターネットを使用して学ぶ時間も含む)(1時間以上の割合)



3 今後の取組

安来市の各小・中学校では、児童・生徒の学力向上を目指し、授業改善をはじめとした「主体的・対話的で深い学び」を支える様々な活動や家庭学習の支援等に取り組んでいます。

安来市教育委員会では、「安来市学力育成推進計画」に基づき、①**支持的風土の醸成**、②**「主体的・対話的で深い学び」の授業改善**、③**家庭学習の充実**、④**本物体験の充実**の4つの柱を設けて授業改善を推進しています。全国学力・学習状況調査の分析から見えてきた成果と課題を踏まえ、各校の授業改善を支援していきます。

また、学力育成の基盤となる**学校と家庭と地域の横の連携**、**保育所園・認定こども園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校の縦の連携**を推進し、一丸となって学力向上に取り組んでいきます。

<学校が大切にしていること>

(1) 支持的風土の醸成

安来市の児童・生徒の「自分にはよいところがあると思う」との回答が増えていることから、子どもが自分の考えや思いを安心して表現できる支持的風土の醸成が進んでいると考えられます。

○学級経営や授業、学級活動及び児童会・生徒会活動の充実を図り、支持的風土の醸成を推進します。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の授業改善

授業で週3回以上PC・タブレットなどのICT機器を利用している割合については、安来市小・中学校は全国に比べ、大幅に高かった。文部科学省の分析では、ICT機器を活用することができると考えている児童・生徒ほど、各教科の正当率、スコアが高い傾向が見られることから、今後もICT機器の活用を推進していきます。

○児童・生徒がICT機器を利用しているというレベルから、一歩進んで、インターネットを使った情報収集、情報整理や発表時のプレゼンテーションの作成等、効果的なICT機器の活用を推進します。
○児童・生徒自身が授業で「何が分かったか、どのような力がついたか」がわかるように振り返りをきちんと行い、学習を通して身に付けた知識を活用し、現実の事象と関連付けて理解できるように授業改善を図ります。

(3) 家庭学習の充実

安来市では全国に比べて、家庭学習を全くしない児童・生徒が少なく、30分以上家庭学習をする児童・生徒は多くなっています。また、ICT機器を家庭学習で使っている割合も全国に比べて高いことから、今後も家庭学習の質と量の充実を支援していきます。

○学習内容を定着させる宿題に取り組むだけでなく、各教科でつけた知識・技能等を活用して児童・生徒が主体的に実生活での疑問を探究していくことができるような家庭学習の工夫を図ります。
○1人1台端末を使い、児童・生徒が主体的に家庭学習の計画を立て、計画に基づいてAIドリル等による学習を進められるようにします。

(4) 本物体験の充実

安来市の児童は全国に比べ「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったことがありますか」の肯定的な割合が低かった。また、中学校において「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」「理科の勉強は好きですか」、「将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思いますか」等の肯定的な回答が低いことから児童・生徒の学ぶ意欲を喚起する取組を推進します。

○授業を学校で完結することなく、児童・生徒が学ぶ意義や学ぶ楽しさを実感し、より深い学びにつながるように専門家や地域の「ひと・もの・こと」の効果的な活用を推進します。
○地域学校協働活動の仕組みを生かして、保護者や地域の方との協働による活動を推進していきます。

〈家庭、地域で大切にしていきたいこと〉

◎ 保護者の皆様へのお願い

安来市の児童・生徒は、全国と比べ毎日朝食を食べる割合も、学校が休みの日に1時間以上家庭学習を行う割合も高くなっています。また、小中学校ともに家庭学習を全くしない児童・生徒の割合は全国と比べて低く、30分以上家庭学習をしている割合は高くなっています。これからも引き続き、**基本的な生活習慣を身につけたり、家庭学習習慣を身につけたり**することを大切にしていきたいと思います。

また、全国学力・学習状況調査の結果をふまえ、次のことも大切にさせていただきますようお願いいたします。

○ 持ち帰ったタブレットを使って家庭でどのような学習しているか、お子様と話しましょう。

・ 学校では、家庭で主体的にタブレットを使って学習を進められるよう支援をしています。また、ドリルとしての使い方の他に、授業とつながる学習にも使っています。是非、タブレットを使ってどのようなことを調べたり、まとめたりしているか等を実際に見たり、話題にしたりしてください。

○ 地域の行事に積極的に参加したり、郷土の自然や文化にふれる体験をしたりしましょう。

・ 地域の人との温かなふれ合いによって、社会のルールやマナーを身につけたり、思いやりの心や社会性などを育んだりすることができます。また、自分の役割の大切さを自覚し、責任感をもつことにもつながります。

・ 自然の中や日常生活で疑問をもつことは、お子様の探究心につながります。是非、自然や日常生活での気づきを大切にして、お子様の興味関心を育てていきましょう。

・ 授業で学んだことを実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることで、学力は定着していきます。一緒にテレビを見たり、新聞を読んだりするなどして、授業で学んだことと実生活がつながるように話をしましょう。

○ 読書に親しむ経験を豊かにしましょう。

・ 本に親しむ経験は、語彙が増えたり実生活の疑似体験をしたりすることで、学習の基盤につながります。

・ 家で読み聞かせをしたり、一緒に読書をしたりするなど、家庭での読書の機会を増やしていきましょう。

◎ 地域の皆様へのお願い

・ 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と回答した生徒の割合が85%を超えていることは、本市の大きな強みであると言えます。これは、本市が進めているふるさと教育に対して、地域の皆様のご協力をいただいている賜物と考えています。

・ 同じ質問について児童では、全国より低くなりました。「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか」という質問の肯定的な回答も全国に比べて低いことから、これまで以上に子どもたちと意識して関わっていただきますよう、よろしくお願いいたします。

・ ふるさと教育については、今後もより充実したものになるよう取り組んでいきますので、引き続きご支援をよろしくお願いいたします。